

4月13日(月)

新 た な 誕 生

聖書朗読 ヨハネ 3:1~12

それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授けなさい。 マタイ 28:19

新たな出来事は、大半の人々に喜びと幸せをもたらします。子どもには新しいおもちゃが、若い夫婦には新居が、男性には車が、女性には服がそうかもしれません。しかし、キリストにあって「新たな誕生」を経験し「新たに造られる」ことに勝る幸せはありません。

私は以前、ジムという名の青年に出会いました。彼は自らのことを罪人と告白していましたが、神様のことは喜んで話すようになり、キリストのことを学び、そして、最後には、聖霊と水によって、新たに生まれ変わりたいと熱心に求めるようになりました。即座に彼の人生は変わったのです。もはや、嘘も、悪意も、中毒も、残酷もなくなったのです。代わりに、彼はイエス・キリストについて人々に語り、彼らのために祈り、学びを薦めることにエネルギーを費やすようになりました。彼は新たな信者達の小さな集まりを率いて、新たな信仰のしるしによって、会衆を力づけたのです。

新しく生まれ変わったジムは真実に幸せなのです。「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」(Ⅱコリント 5:17)。新たに誕生することは、新たな者としての喜びへと導かれるのです。ジムに聞いてごらんください。

讃美歌 270

祈り 父なる神様。愛、喜び、平和、奉仕の聖霊なる糧による歩み続ける私たちをどうかこれからも導いて下さい。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

キャロル・ピッツ 1972年

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

今日の力

4月14日(火)

愛 と は

聖書朗読 ヨハネ 3：16～21

私たちが滅びうせなかったのは、主の恵みによる。主のあわれみは尽きないからだ。それは朝ごとに新しい。「あなたの真実が力強い。主こそ、私の受ける分です」と私のたましいは言う。それゆえ、私は主を待ち望む。 哀歌 3：22～24

有史以来、社会に対して罪を犯した人間は、追放され、住むべき処を失い、時には死へと追いやられてきました。(哀歌の) 住むべき処を追い出されたこの男性の物語は、人間社会との繋がりを断たれ、所有物を失い、希望もなく絶望の淵に追いやられた私たち一人ひとりの姿を思い起こさせます。私たち罪人は主にあって永遠の命を授かるよりも、むしろ、追放されるべき罪人なのです。

今日は、私たちの愛する人々や好きではない人々も含めた全部の繋がりと、私たち自身の人生を反省する良き日なのです。先週、彼らに対してどのように振る舞いましたか？ 私たちの愛する御霊は、彼らの永遠の命について心配したのでしょうか？ 私たちは私たちの信仰を言葉に表したのでしょうか？ 主は慈愛を以て臨んで下さいます。神様は御子を私たちの罪からの救いのために遣わして下さり、消えることのない、不変の愛のみしるしを以て、私たちに光をお与え下さったのです。なぜでしょうか？ 神様は愛だからです。疑う余地なく、最も重要で喜びにあふれた福音は、私たちの主である神様は、私たちを愛し、私たちが周囲の人々に対して同じように愛することを望んでおられるということなのです。

聖歌 292

祈り 父なる神様。愛はあなたから授かったものですから、私たちがお互いに愛し合うことができますように、あなたに従うことができますように、どうかお導き下さい。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

ジェームズ・C・モーレⅢ 1978年

4月15日(水)

キリストは完全に満ち足りる

聖書朗読 ヨハネ 6：1～15

あなたがたは、このように主キリスト・イエスを受け入れたのですから、彼にあって歩みなさい。キリストの中に根ざし、また建てられ、また、教えられたとおりの信仰を堅くし、あふれるばかり感謝しなさい。 コロサイ 2：6～7

5,000 人の人々に食物を与えるこの聖書箇所は、人間が求めているもの全てに対するキリストの憐みのしるしです。イエス様がまずお考えになったのは、人間が求めているものを理解することでした。イエス様だけが、唯一、真実に、おわかりになるのです。

信仰の確かさを主張する、目に見える明確な証拠はありませんでしたが、イエス様は、大きなものを願った時の信仰の大胆さをお示しになったのです。「常識」や合理主義は、真の信仰の死に繋がります。全能の力は、キリストにあって私たちのうちに既にあります。イエス様は、私たちに高き望みを抱いておられ、その御業は、私たちをいつも驚かせます。

キリストは、私たちの貧しき供えをお取りになって、人々の全てを満たすものをお造りになられる、ということをお覚えましょう。本日の聖書箇所にあるこの少年が彼の昼食を差し出したように、イエス様の前に、各々の供えを差し出しましょう。「取るに足りない」ものの中に、私たちの主にあって、真に大切なものがあるのです。ほんの僅かの奉仕、時間、祈り、あなたが捧げるそれらは決して無駄に終わらないのです。

最後に、祝福を受ける前に私たちが与えなくてはいけないということを、聖書箇所にある群衆の行動から学びましょう。「人々をすわらせなさい」とイエス様が仰せになり、それから祝福が来たのです。イエス様がお命じになる所に行きなさい。イエス様が仰ることを行い、イエス様を信じなさい。そうすれば、イエス様はあなた方に慈愛の御手を差し伸べて下さいます。

讃美歌 318

祈り 父なる神様、私たちが、この世の安寧の生活から抜け出し、主の恩寵にある真に満たされた生活を歩むことができますようにお導き下さい。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン

ロナルド・タイラー 1979年

4月16日(木)

弱きを守るキリスト

聖書朗読 ヨハネ 8:1~11

彼はいたんだ葦を折ることもなく、くすぶる燈心を消すこともない、公義を勝利に導くまでは、
マタイ 12:20

傷つけられた良心や弱い信仰に対して、イエス様がお示しくださった優しさと寛大さについて、静思しましょう。いたんだ葦は、深く傷つけられ罪によって辱められた良心の絵のようです。くすぶる皿麻の燈心は、不十分な油で、もはや明るく輝くこともなく、ただ、くすぶり続けるのみ。これは、極めて弱いながらも消えることのない信仰を現しています。

本日の聖書朗読にある、罪に定められた女性は、まさに、このいたんだ葦でありくすぶる燈心であったに違いありません。彼女は、自分を守ったり、否認したりはしませんでした。言葉にはできないほど恥辱のうちにあったに違いありません。イエス様は、いたんだ葦、彼女の罪に病んだ魂を癒すことを望まれたのです。イエス様は、残っている僅かな希望と信仰を再び燃え立たせるために風を送ることを望まれたのです。イエス様は決して判決を言い渡しませんでした。それは、イエス様の伝道の業ではなかったのです。イエス様は、罪を非難するために来られたわけでもなく、見逃すために来られたわけでもなかったのです。代わりに、『今からは決して罪を犯してはなりません。』と仰ったのです。

イエス様は、私たちが罪を犯した時に同じことを私たちに仰います。イエス様のこの優しさと憐みは、私たちが悪事を働くことを勧めるためではなく、罪を深く悔いた魂のうちに希望を起こさせ、弱さのうちにより強き信仰を育たせるためにあるのです。

讃美歌 第二編 80

祈り 父なる神様。あなたのご配慮、寛容と優しさのうちに今日も私たちに安らぎを与えて下さいますようにお祈りいたします。あなたがお示し下さったご配慮を私たちも周囲に為すことができますようにどうかお導き下さい。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

セシル・N・ライト 1958年

4月17日(金)

足を洗う方法

聖書朗読 ヨハネ 13:1~20

夕食の席から立ち上がって、上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。

ヨハネ 13:4

イエス様が、弟子たちの足を洗われるこの箇所は、別の箇所(マタイ 20:20~21)の内容と比べると、美しい情景です。別の箇所では、ヤコブとヨハネの母がやってきて、息子たちに代わって、ふたりの息子が御国で、イエス様の左右にすわることができるようにと、求めたのです。彼女は息子たちの名声だけに興味があったのです。イエス様は、私たちに素晴らしい道をお示し下さいました、神様に捧げる道、仕える道です。

名誉な立場と言えば・・・組織の社長、委員長、尊敬される発言者といったところでしょうか。この世はそういった立場により魅力を感じます。ゆえに、低き道、奉仕の道を選ぶことは難しいことです。おそらく、私たちは、誰も私たちに気かけなくなり、誰からも称賛されなくなることを恐れているのです。しかし、イエス様は私たちに、例として仕える道をお示し下さいました。イエス様は、弟子たちの疲れた、汚れた足をお洗いになったのです。洗う必要性があったからです。これはしるしなのです。しかし、しるしだけではありません。必要とされる奉仕のための行動なのです。私たちの奉仕というものは、愛すべき人を看取る介護であったり、病のうちある母親の子どもたちの面倒をみたり、キリスト者としての考え方を家庭にある私たちの家族に与えたり、といったものかもしれません。誰が称賛を得るのかとういうことをあなたが気にしないのであれば、あなたのできる良きことには限りがなくなります。イエス様は全てご存知です。それこそが価値あることなのです。

讃美歌 390

祈り 主なる神様。私たちが日々を献身的な道によって過ごすことができますようにお導き下さい。膝を折りあなたに祈るときでさえも、私の祈りが他者のものでありますように。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

ネルダ・ハウレイ 1978

4月18日(土)

ユダとイエス様

聖書朗読 ヨハネ 13:21~38

怒っても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで憤ったままでいてはいけません。
悪魔に機会を与えないようにしなさい。 エペソ 4:26~27

紀元前44年3月15日に、「全ての中で最も高貴なローマ人」であるユリウス・カエサルは、友人のふりをしていた男たちによって暗殺されました。歴史には、カエサルは、友の刃によって貫かれるまで自身を守ろうとし、そして、憤慨して悲痛のうちに、自らのマントで頭を覆い運命を受け入れたと記されています。

聖書は、ユダについて、『私が信頼し、私のパンを食べた親しい友までが、私にそむいて、かかとを上げた。』(詩編 41:9)と記しています。

誰がこの「隠された邪悪な力」を理解できるのでしょうか？ 全く理由がわかりません。イエス様と親しく交わり、教えに聞き従い、良き友との長きにわたる交わりの3年後には、勝手気ままで無謀な考えで、ユダは、彼の主に背いたのです。

貪欲が、ユダの心のドアを開け、サタンが歩み入ったのです。今や、ユダは単なる人間ではなく、悪魔を持った人間となったのです。「今や、地獄が彼の胸のうちにあったのです」そして、彼はいかなる罪も犯すことができる準備が整ったのです。

空腹で獰猛なライオンにたとえられるサタンは今も「不従順な息子のうちに入り込もうとしている」ことを決して忘れてはなりません。

抵抗できない人に入り込もうとするサタンの力を決して過小評価してはなりません。

讃美歌 298

祈り 主なる神様、私たちの心が、サタンが入り込む余地がないように、聖霊によって満たされますようにお祈りいたします。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

K・C・モーサー 1963年

4月19日(日)

喜びへの備え

聖書朗読 ヨハネ 14:1~14

あなたがたのために、わたしは場所を備えにいくのです。 ヨハネ 14:2

子どもの時、私は、寝室の窓に近い枝に鳥たちが巣を作るのを見ることを楽しみにしていました。私は鳥たちが歌っているとは思わなかったのですが、作業がたとえ大変でも、巣作りの仕事を楽しんでいるように思えました。

赤ちゃんの誕生を待ち望んでいる若い夫婦も、同じ喜びのうちにいるのかもしれませんが。子どもには、誕生までにいかほどの膨大な作業されたなどということは全くわかりません。ただ、赤ちゃんがこの世に生まれた時には全てが準備できていることだけがわかるのです。

私たちは、イエス様がじきに去られることを理解していた弟子たちの深い悲しみと絶望を、時々、自分自身も鋭く感じることがあります。しかし、悲しみのさなかにある中で、『あなたがたのために、わたしは場所を備えにいくのです。』という言葉がありました。絶望を抜け出して、喜びのうちに躍り出たのです。この世に生まれた子どもは、その誕生のために準備された全てのことに気がつきません、ですから私たちは、この世の中で準備されたことしか理解することはできないのです。

私たちが、唯一知っているのは、人であられた方が、私たちより先に、その準備のために行かれたということなのです。私たちが、準備された処に行くことができるというのは慰めであり、更に喜ばしいのは、その準備は私たちの主がなさって下さったのです。

讃美歌 第二編 194

祈り 父なる神様。私たちの過去も、現在も、未来においても、完全なる信頼をイエス様に寄せることができますように。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

ナガイ・ミチオ 1963年